

平成 28 年度の電気ショッカーボートによるオオクチバス捕獲状況

田口 貴史・関 慎介（水産課）

1. 目的

平成 28 年度の電気ショッカーボート（以下 EFB）でのオオクチバス（以下、バス）捕獲状況を過年度の結果と比較し、駆除効果を把握する。

2. 方法

平成 28 年度の EFB によるバス駆除は例年と同じ区間¹⁾で平成 28 年 4 月 15 日～6 月 29 日、同年 10 月 11 日～11 月 15 日、平成 29 年 3 月 17 日～3 月 31 日の 3 期に分けて行われた。各時期において、捕獲魚の一部をサンプルとして、標準体長（以下、体長）と体重を測定し、胃内容を調査した。また、捕獲データから駆除時期別の時間あたり捕獲重量（重量 CPUE：kg/EFB 操業時間）を算出した。得られた結果を過年度の結果と比較した。

3. 結果

年度別、時期別のバス捕獲重量 CPUE を図 1 に示す。平成 28 年度 4、5 月の重量 CPUE は、61.7 kg/時間で前年度比 108.0%とほぼ横這いであった（図 1）。6 月以降の重量 CPUE についても昨年度から横這い傾向であった。

4～6 月にかけての捕獲魚の体長組成を図 2 に示す。平成 27 年度と同様に、本年度も体長 30cm 以上の大型のバスの頻度が低かった。一方で、今年度は体長 16～30cm のバスの頻度が高かった。このサイズのバスの頻度が高いのは、平成 27 年度の 6 月に体長 10cm ほどのバス（1 歳魚と推定される）が多数捕獲されたことと、平成 26 年度にバス当歳魚が大発生したことから²⁾、平成 26 年度生まれのバス（卓越年級群）が成長したためと考えられる。

現状では重量 CPUE の増加や、捕獲個体の大型化が認められていないことから、この卓越

年級群による影響は限定的と考えられる。しかしながら、今後これらがさらに成長した場合には、バス生息状況が EFB での駆除開始当初の水準に戻る恐れもあることから、継続した駆除が必要である。

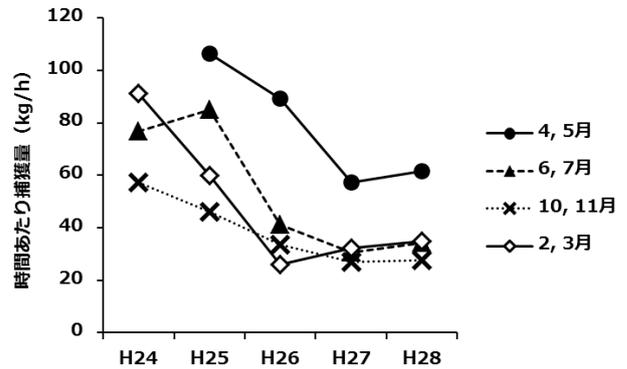


図 1 時間あたりオオクチバス捕獲量の経年変化（捕獲時期別）

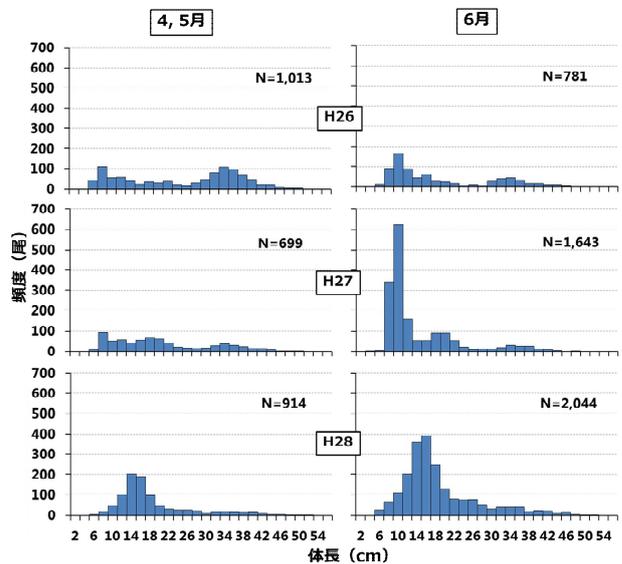


図 2 過去 3 カ年の捕獲オオクチバスの体長組成（捕獲時期別）

1) 白杵・関（2015）平成 26 年度滋賀県水産試験場事業報告

2) 田口・白杵・佐野（2016）平成 27 年度滋賀県水産試験場事業報告